

風のように

甘木教会



主任牧師：白川道生

牧会委嘱牧師：竹田孝一

主の御目にわたしは重んじられている。わたしの神こそ、わたしの力。
イザヤ書49：5

神は真実な方です。この神によって、あなたがたは神の子、わたしたちの主イエス・キリストとの交わりに招き入れられたのです。
Ⅰコリントの信徒への手紙1：9

1:29 その翌日、ヨハネは、自分の方へイエスが来られるのを見て言った。「見よ、世の罪を取り除く神の小羊だ。……」

1:34 わたしはそれを見た。だから、この方こそ神の子であると証ししたのである。」 ヨハネによる福音書1：29、34

【説教要旨】

神は真実な方です

私たち夫婦の仲人、私の卒論の指導教授であったルター学者の徳善義和牧師の神学大学1年生のキリスト教緒論という授業で、まだ聖書の言語であるヘブライ語、ギリシャ語を読めないでいる私たちが、どう聖書を読むかという授業があり、出来るだけ翻訳された聖書を読み比べることだと教えていただきました。今も説教を作るときこの習慣を守っています。

今日の第2日課の「神は真実な方です。」という「真実」という言葉です。新共同訳、共同訳、新改訳、口語訳は「真実」と訳しています。しかし、フランシスコ会訳では、「神は信頼に値する方です」となっています。北森嘉造牧師私訳は「神は直実な方です」となっています。そこで、私たちはどう受け止めていくかというとなり、聖書を解釈した注解書を読みます。教会では新共同訳聖書を礼拝で使っていますから、「新共同訳聖書注解書」にあたります。「真実」は人間が主語である場合には『信仰』とピスティスである。パウロはここでその確信のすべてを神のピスティス（誠実さ、忠実さ）に置く。ピスティスに

よる救いは、人間の信じ深さや神への忠実に先だって神の人間に対する真実によるそれなのである」とあります。終末（私たちの主イエス・キリストの日）において、「1:8 主も、あなたがたを、私たちの主イエス・キリストの日に責められるところのない者として、最後まで堅く保ってくださいます。」という根拠は、「神のピスティス（真実、実直、誠実）」にあるのです。

病気をして私たちの人生につくづく終わりがあると感じました。私たちの人生の終わりに対して、責められるところのない者として、神の前に立てるものとしてくださっている。そして、ここに行き着くまで最後まで堅く保ってくださいましているという神の真実によって私たちの歩みは堅く保たれているということです。だから、神の真実を私たちの真実（信仰）として生きれば良いということです。「1:4 私は、キリスト・イエスによってあなたがたに与えられた神の恵みのゆえに、あなたがたのことをいつも神に感謝しています。1:5 というのは、あなたがたは、ことばといい、知識といい、すべてにおいて、キリストにあって豊かな者とされたからです。1:6 それは、キリストについてのあかしが、あなたがたの中で確かになったからで、1:7 その結果、あなたがたはどんな賜物にも欠けるところがなく、また、熱心に私たちの主イエス・キリストの現われを待っています。」とあるように、いつも神に感謝し、ことばといい、知識といい、すべてにおいて、キリストにあって豊かな者とされ、どんな賜物にも欠けるところがないものとされているのです。

今、ここまで歩んで来ることが出来たのは、多くの人の支えがあったとことでありますが、それ以上に神の恵が降りそそがれたからだと感謝できます。なんと幸せなことだろうかと深く感じています。私が、隣人に対して、神に対してよく行いができたということではなく、むしろ問題を持ち、欠けの多い器であったかと自分自身が一番よく自覚しています。この欠け多い私を主イエス・キリストとの交わりに招き入れられたゆえに私たちの主イエス・キリストの日に責められるところのない者とされ、最後まで堅く保ってくださいますると実感しています。

私の人生の歩みの主人公は私だと思っています。しかし、「神は真実な方」と信じる信仰は、私の人生が、私が主であるということ打ち砕き、神が、主・イエス・キリストが主であるという事実が私たちに恵みとして与えられているということです。主は私たちの主であるとともに、そのすべての人々の主です。「です。」とあるように、私たちがどうであれ、私たちの主である方は、私たちの歩みの内に共にいてくださり、主・イエス・キリストが終わりの日まで神の前に責めるべきところなく、日々を堅く保ってください。主イエス・キリストとの交わりに招き入れられ、私たちの主イエス・キリストの日（終わりの日）に責められるところのない者とされ、最後まで堅く保ってください。（1コリント1：8）

主の御目にわたしは重んじられ、わたしの神こそ、わたしの力。（イザヤ書49：5）と実感できる今と希望をもって最後を迎える私の人生の歩みがあります。人生の歩みにおいて、山坂はあるでしょう。社会の大変革期にあって、混迷を生き、今年も大きな試練を受けつつ日々を生きるでしょう。しかし、私の人生の主は私であると同時に信頼に値する主・イエス・キリストであるという神の真理の道を共に歩んでいくことが出来る私たちです。圧倒的な主・イエス・キリストが主であるという神の力に生かされている日々が続いています。

また、「です。」肯定された私たちは同時に時代に苦しむ人々に「見よ、世の罪を取り除く神の小羊だ。・・・・

1:34 わたしはそれを見た。だから、この方こそ神の子であると証ししたのである。」という証を、今年の教会の主題聖句と総会に提案しようとしている「恐れるな。語り続けよ。黙っているな。わたしがあなたと共にいる。だから、あなたを襲って危害を加える者はない。この町には、わたしの民が大勢いるからだ。」

（使徒言行録 18章 9・10節）」とあるように隣人に時が良くても悪くても主の福音を伝えていく者となり宣教に共に励みましょう。参考本:「コリント人への第一手紙講解」北森嘉造 日本基督教団出版局、新共同訳聖書注解 高橋敬基 日本基督教団出版局

牧師室の小窓からのぞいてみると



1995年1月17日早朝、5時46分ごろに愛知県刈谷市の牧師館が突きあげられるように揺れ、私たち家族は飛び起きた。あれから31年がたった。阪神・淡路大震災である。

その後、東日本大震災、熊本地震、能登半島地震と続いた。地球は巨大地震活動期に入ったという地震学者もいる。

地球は生きていて、地震だけでなく、氷河期、温暖期と気候も変化し、地球を変えてきた。自然は大きく動くということが、これが普通であるということかもしれない。

それを踏まえて、人類はこの大変化を乗り越えて、今の世界を作ってきたことも事実である。確かに大震災後も色々と問題があり、苦しんでいる。しかし、阪神・淡路大震災、東日本大震災にあって、隣人同士が助け合い、乗り越えてきたことも事実である。私たち人類も捨てたものではないということです。

希望をもって、私たちはこれからも来る地球の大変動に向かい合っていきたいと思っている。

園長・瞑想？迷走記



3学期が始まった。教育・保育現場は、子どもたちの成長と出会いながら最後の日々を過ごす楽しい時であるかもしれないが、一方、次年度にむけて自己評価、次年度の教育保育の準備を始め、忙しくなるし、特に年長の先生は、卒園式へ向けての用意、小学校へ提出する書類などで、仕事量が増える。

毎年のことだから、マニュアル化もされているから、スムーズにいくと思いがちだが、なぜか、スムーズにはいかない。毎年、毎年、何かが起きる。この何かが起きるといのが教育・保育の醍醐味ではないだろうか。スムーズにいくことよりも何かが起きることこそ、大切にしていこうではないかといつも思えるようになった。

どんなドラマが3学期は、起きるのだろうか。

日毎の糧

聖書：主よ、あなたも憐れみの心を閉ざすことなく／
慈しみとまことによって／いつもわたしをお守りください。

詩篇40:12



ルターの言葉から

この世の権威は神が憐れみ深く、いかなる殺人も喜ばない、神の恩恵のしるしである。

『卓上語録』M.ルター著、植田兼義訳、教文館

神の慈しみに生かされ

40篇は、普通、苦難から救いを嘆願し、感謝あるいは讃美と詩編を展開していくが、この詩編は、救いの感謝、讃美から苦難の中での嘆きの嘆願となっている特徴がある。

「本詩は、嘆願の祈りで終わっているが、死に瀕するほどの苦難から解放された信仰者がささげる感謝と讃美の詩として編まれた作品であった、と思われる。」①

「わたしの耳を開いてくださいました。7節」という「わたしの耳を開く」とは、「耳を掘る」という強い表現で、神に深く教えられ、神に従順なるものにしてくださったという意味である。

私たちはどんなものであれ、キリストの十字架の贖いで、神に従順なる者とされている。

だから、私たちは、強く神に願い、祈るのです。「主よ、あなたも憐れみの心を閉ざすことなく」と。それは、同時に私たちが神の憐れみに心を閉ざすことのない者としてくださいと神に強く願い、祈るのです。

主の慈しみとまことによって／いつもわたしが守られているという信頼は、私たちの人生に勇気をくださり、一步一步を喜びをもって歩める自分を発見するにちがいありません。

①（「詩篇の思想と信仰Ⅱ」月本照男 新教出版）

祈り：神の憐れみに心閉ざすことなく、神の憐れみに生かされて歩む喜びが与えられますように。アーメン。

甘木通信

みな一つ所に行く。皆ちりから出て、皆ちりに
帰る。・・・・・・それで、わたしは見た、人
はその働きによって楽しむにこした事はない。こ
れが彼の分だからである。 コヘレトの知恵



コヘレトの言葉で、へんに納得する言葉がある。「分」という言葉である。それぞれには「分」があるというのである。長く生きて、人には「分」があることが分かってくる。

「分」を「運命」と受け留めるのは、行き過ぎかもしれないが、しかし、それぞれには運命というものがあるように思える。個々人それぞれの「運命」「分」があるから、だから他と比較して自分自身を決めつけるのではなく、自分の「運命」、「分」というものが何かということを深く掘り下げた方が、良いのではないだろうか。自分は何者かということを知るとき、神が与えて下さった「分」、「運命」というものが分かり、もっと豊かな自分があるのではないだろうか。

私は、家柄も、頭も、容姿も悪く、どうにかここから逃れようと努力したものだ。コンプレックスの塊だった。しかし、気づいたことはどんなに努力しても乗り越えられないということである。

神学校旧約特講で、コヘレトの言葉に出会ったとき、それぞれに「分」があり、優劣は神の目にはない、どんなに惨めであってもそれは、「分」と。段々と心が解放され、ブラジルという世界に掘り込まれ生活し、さらに、「わたしは見た、人はその働きによって楽しむにこした事はない。」ということを実感した。自分なりにその日を楽しむ。これが妙技だと。

(甘木日記)土) 午後まで甘木教会へ。「キリスト教講座」を開く。主日の準備。泊。日) 降雪の予報。高齢化で、車の運転が心配。幸い降らず、礼拝、役員会と無事に終わる。月) 聖和幼稚園卒園生の成人の集いに最初、出席。こういう習慣はこれからも続けられれば願う。火) 連休明けの日善幼稚園。仕事はしんどい。水) 今後の幼稚園経営のコンサルタントとzoom会議、職員会議、職員と個人評価の面談。木) 松崎保育園、子ども礼拝。参加日で保護者が出席。午後から甘木教会。引き返し久留米で園長会。金) 幼稚園に午前中に出て、午後から東京に。

おまけ・牧師のぐち（続日記）牧師だって神さまの前でぐちります。 はぐちらない聖人（牧師）もいます。

土）甘木教会滞在日。午後まで教会に行き、「キリスト教講座」を開く。多くの方々が、教会に来て下さるようにならなければいかと挑戦をしたい。日）雪という天気予報だが、ちらつくが大雪にならずに礼拝を守れる。でも、どこかで積もってほしいという子どものような心がある。役員会と続く。土地購入の申請書が、上部教会の執行部の常識ある判断と思うが止められ、断念。いつものことだが、個々の教会に任せれば良いと思う。いくら計画しても計画通りになったことはない。なるようになるという常識を超えるのが宗教だと思うが。組織人でない私には現役の時からこれが理解できなかった。月）20歳の成人式に、幼稚園に卒園人と親がくるというので甘木教会に行く。すばらしい集いだと思う。テウ十字架とフランシスコの「平和の祈り」のしおりをプレゼント。挨拶をして、少し遊びと思い、甘木からバスで博多に小さなバス旅。組織に守られてきたし、引退しても組織に守られているが、自由に泳ぎたいときもある。趣味のデパ地下、ひさしぶりの阪急、JR博多駅地下。イカ焼き、卵ご飯を食べ、お土産に大安い楽しみ。火）連休も終わり、幼稚園のお仕花壇の花の手入れから。三色すみれが大きくな子悪く、急いで店に。スマホなしの生活はないという世界はつい最近である。Facebookを乗っ取られたという声を聞く。乗っ取られた方は気が気ではないだろう。だから、老人は近づかない。しかし、この怖さを越えて超す今の宣教があるのだろう。水）早朝、電話。我が家の子と今は豊田の幼稚園園長のH姉の子がいつも地区の堅信キャンプで一緒だった。そのH姉が急死したと。我が家の服や下駄が、H姉の子どもたちにお下がりで行っていた。昨年の夏の研修でお会いしたばかりだったのに。葬儀の日と羽村幼稚園の理事会、評議員会が重なり、出席は家内に任せる。



ッセージ。
行き、昼
の園長会。
線）一久



ただ呆然と早朝、幼稚園へ。8時から経営コンサルタントzoomで打ち合わせ。その後、H姉が亡くなったことを忘れたように幼稚園でいつもの仕事。職員会議も終わり、不動産屋から電話。土地購入をいったんは断ったが、まだ、まだ未練があり、悩む。木）午前中は松崎保育園で保護者参加日の親子礼拝。最初は子どもへ、次は親へのメいつも感心するが礼拝中はお行儀が良い。甘木に食。花壇に春の花の苗を植える。夕刻から久留米久留米一小郡（西鉄本線）一松崎一甘木（甘木留米（西鉄甘木）一園長会（徒歩）よく動くは。

（第三セクト・甘木線）政治も動き出し、さてどうなることか。帰ると恩師の清重牧師から、旧約聖書特講を教えてくださいましたファースト先生の写真が送られてきていた。この歳になってもいつも教え子の私を思いやってくださることに感謝。金）明日の羽村幼稚園の理事会、評議員会合同のために東京に。家内は一緒に歩いて来たH園長の葬儀に豊田市に向かう。思い出は若い時の子どもらの堅信キャンプ。全てに時あり。



判焼きを購入。
事。暖かいので
た。スマホも調